

はあとふる

地域の皆さんに、心(Heart)と技術(Hands)でヘルスケアサービスを提供するためのコミュニケーション誌



■特集

八尾はあとふる病院の回復期リハビリテーション病棟

インタビュー 作業療法士の仕事

『身体機能回復だけのリハビリではなく
社会復帰までのリハビリを目指したい。』

まめ知識 島田病院の糖尿病専門診療

トピックス
感染対策講習会を行いました
第14回大阪病院学会 開催報告
はあと・はんずアカデミーを終えて
Infection Control Nurseの部屋

たとふれば 独楽のはじける 姫くなり

高浜虚子

二つのコマを狭い盤上で回し遊ぶ喧嘩コマでは、コマ同士がぶつかって弾けても、何度も繰り返し近づき、また弾けます。

この句から人間関係のありようを連想しました。さまざまな立場で人は人と接します。ぶつかっては離れ、離れては近づくことを繰り返しながら、相手への理解や尊敬が深まり、心理的距離が接近し、有効なチームとしての機能を発揮できる姿がコマと重なって見えできます。

さて、私たち「はあとふるグループ」は、使命や理念を基本に、時代や制度の変化に対応し、これから進む方向や中身がハッキリとしてきました。何をするかではなく、それをどのように成すかだと考えています。

私たちの仕事が、はたして本当に良いものなのか、客観的に評価を受ける必要があります。専門特化した機能について、その内容を集約し、分析すること、そして社会に對しオープンにすることが大切だと考えました。

機能特化に関する情報集約・分析から公開へ

が今年のグループ全体の基本的なテーマです。
どうぞ、ことしもご理解とご協力のほど、よろしくお
願いいたします。

はあとふるグループ代表 島田永和



島田病院、八尾はあとふる病院は
「病院機能評価認定病院」です。

はあとふる グループ

医療法人(財団) 永 広 会
社会福祉法人 はあとふる

病気やけがで障がいを持ったとしても、自分らしい生活を取り戻したい、そのために回復期リハビリテーション病棟があります

仕事に力を尽くしていた人、一家の生活を切り盛りしていた人、孫の世話に生きがいを持っていた人、老後の楽しい趣味活動に励んでいた人・・・さまざまな人に病気やけがで障がいをもたらすことがあります。

私たち専門職スタッフは、どこまでどんな風にして自分らしい生活を取り戻せるか、計画的なリハビリテーションでお手伝いがしたいと考えています。

今年4月から回復期病棟ごとの『質』を評価して診療報酬に差をつける成果主義に変わる予定です。どんな制度になっても、私たちは、正しい評価に基づくリハビリテーションを適切に実施し、在宅への支援を続けていくことに変わりありません。

回復期リハビリテーション病棟とは？

リハビリテーションを専門に行うための入院病棟です。医療の高度化と人口の高齢化を背景に、それぞれの医療機関が専門ごとに役割を分担して受け持つようにと、平成12年の介護保険制度の施行とともに、この回復期リハビリテーション病棟が厚生労働省によって指定されました。

病気やけがで入院された方々が急性期の治療を受けられた後、体力・気力の低下のため、退院してすぐ自宅に戻る

ことが難しいケースが多くあります。そのような場合に回復期リハビリテーション病棟に入院して機能回復のための訓練や援助を受けます。





歩行訓練前の下肢装具チェック



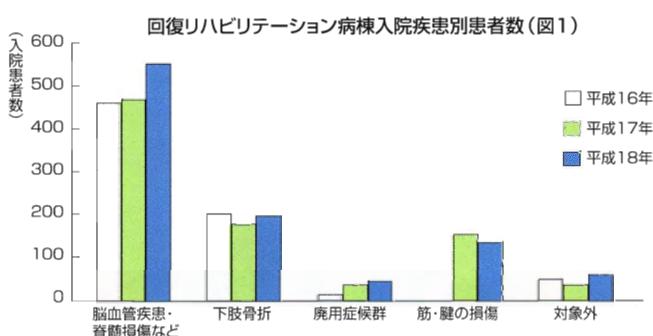
車椅子でのキャスターアップ訓練（車椅子で段差を乗り越える訓練）



訪問リハビリでの屋外歩行訓練

どのような方が入院されていますか？

脳や脊髄の損傷、あるいは手術を受けたり、重篤な疾患・外傷のために起きたり歩いたりすることが困難になった方々が対象となります。具体的には脳卒中や下肢の骨折手術後の患者さまや肺炎で全身の機能が低下（廃用症候群）した方々が多く入院されています。（図-1）



**障がいが重度であればあるほど
早期からリハビリテーションを行うことが
重要になります**

急性期の病院での治療が一段落すれば、できるだけ早く当院に入院していただけるよう地域連携課を中心にさまざまな急性期病院と連絡をとり、脳卒中では大きな合併症がない限り発症後1ヵ月以内、整形外科の手術では術後数週間以内を目安として転入院し、ベッドから離れて生活に必要な動作ができるよう機能訓練を行います。
褥創や転倒・転落事故の予防はとくに重要な課題としてチームで取り組んでいます。

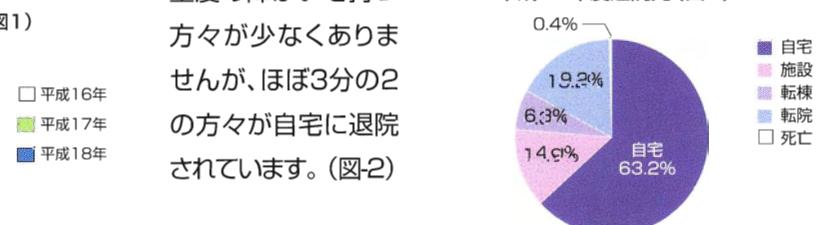
住み慣れた自宅での生活に戻れるよう 援助することを目指しています

回復期リハビリテーション病棟では患者さまがベッドから起き上がり、座り、食事をし、トイレでの排泄や着替えや歩行ができるよう援助するために医師・看護・介護・機能訓練の各専門職が共同で診療にあたります。当院は全国の回復期リハビリテーション病棟と比べても理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリテーション専門職を多数配置しており、定期的にケースカンファレンスを行って個々の患者さまに応じたリハビリテーション計画を立てて機能訓練

を行うとともに、退院後のプランを立てるために住宅評価を行って生活環境の整備を援助します。入院される患者さまは重度の障がいを持つ方々が少なくありませんが、ほぼ3分の2の方々が自宅に退院されています。（図-2）



平成18年度退院先（図2）



地域で継続して支えるために

八尾はあとふる病院は、入院中の集中したリハビリテーションの提供だけでなく、外来・通所・訪問リハビリテーションなどそれぞれのリハビリテーション機能を有することで、連続的・継続的なリハビリテーションを患者さま一人ひとりにあわせて提供します。その結果、患者さまが地域や自宅に戻られても安心して生活ができるように取り組んでいます。また当院は、「中河内圏域地域リハビリテーション支援センター」として指定を受けており、地域のリハビリテーションの中心的立場を担う病院として、地域リハビリテーション協議会・病院連絡会などへの関わりや講習会の開催など地域リハ事業を進めていく上での連携や啓蒙活動に積極的取り組んでいます。

はあとふるグループのリハビリテーション理念

その人がその人らしく尊厳を保ち、
ご希望の人生となるようチームで、全人的に支援します

私たちはいわゆる「病院のリハビリテーション」というイメージから受け取る患者さまの運動機能に対して行う治療にとどまりません。「私たちはその人がその人らしく」あるために、その人自身の生き方、生き甲斐というものを一緒に考え患者さまと共有しそして一緒に発見していくお手伝いをさせていただきます。そのためには患者さまと一緒にチームとして取り組み方針を決定していきます。



『身体機能回復だけのリハビリではなく 社会復帰までのリハビリを目指したい』



八尾はあとふる病院 リハビリテーション課 主任 作業療法士 伊藤 健次郎さん

回復期リハビリテーション病棟では、多くの専門職がチームとなり、患者さまの社会復帰を支援しています。リハビリテーション課は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と三つの分野に分かれており、その中で今回は、作業療法士(OT)をご紹介します。

『僕は学校を卒業し、作業療法士になった後、地元(大阪府八尾市)から離れたところで経験を積みたいという思いから、沖縄で作業療法士として5年ほど勤務しました。そこで急性期、回復期、維持期と異なる分野でのリハビリを経験してきました。維持期のリハビリでは、老人保健施設も経験しましたし、訪問リハビリも経験しました。最初の5年間は、僕の目指すリハビリはどこにあるのか?を考えしていましたね。

沖縄での経験は今の僕を支えてくれています。沖縄の人は、自分の悩みなどの弱い部分をできるだけ人に見せないって言うのが美德としてあるように感じました。だからリハビリをする場合でもなかなか本心を言ってくれません。沖縄でコミュニケーション技術の難しさや大切さをあらためて感じました。ところが大阪に戻ってくると、多くの患者さんが何でも言ってくれるので、カルチャーショックを受けましたよ。八尾はあとふる病院に勤務して3年ですからもう慣れましたけどね。でも沖縄でコミュニケーション技術を磨けた事は、回復期のリハビリを担当する上で、大切な経験だったと思っています。

これまで多くの患者さんと接してきましたが、リハビリテーションは決して機能(身体)的な事だけを指しているわけではないと実感しています。医学的リハビリテーション、社会的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、地域リハビリテーション……等とても幅広い意味を持っています。

八尾はあとふる病院には、定年後の患者さんもいらっしゃいますが、40~50歳代の働き盛りの人も多く入院されているので、このようなケースを例にあげてみます。元気に働いていた人に「障害がい」が残ってしまい、これまで通り働くことができなくなるどうでしょうか。このようなケースでは機能的リハビリだけでは意味がありません。仕事ができない事からくる喪失感などには心理面でのフォローも必要でしょうし、経済的な問題、人間関係の

問題、住宅の問題などにもフォローが必要です。このような場合、機能的リハビリテーションだけでなく、さまざまな専門職からのアプローチが必要となります。僕が専門とする作業療法は職業療法と呼ばれていたこともあるぐらいに職業と関わりがあります。作業療法士は、日常に必要な動作等をリハビリに取り入れて訓練します。年齢が若い場合、職業復帰を希望する方も多いので、就業が可能な職業と一緒に考えて、それを目標にしてリハビリを行います。現状では、職業選択から就職までの援助は難しいですが、地域ネットワークを活用した援助を行っています。本人の身体能力を考慮した職業について八尾・柏原障害者就業生活支援センターや大阪障害者職業センター、職業安定所などの地域ネットワークを活用できるように情報提供や紹介をしています。患者さんにとっては社会復帰後の生活こそが大切なので、そこを視野にいれたリハビリを提供しています。

回復期のリハビリは病院の中だけの問題ではなく、様々な地域との関わりが必要不可欠です。八尾はあとふる病院は中河内圏域地域リハビリテーション支援センターでもあるので、このようなネットワーク作りにも関わることができます。地域ネットワークを活用したりハビリを目標とする私にとって八尾はあとふる病院が今僕の目指すリハビリであり、これからも地域ネットワーク作りに取り組みたいと思います。』

現代におけるリハビリテーションとは、単に身体能力の回復だけを言うのではなく、医療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合う活動のすべてを指しています。八尾はあとふる病院は、中河内地区地域リハビリ支援センターとして、地域ネットワークの構築を含めたリハビリテーションを提供していきます。



まめ知識

vol.19

島田病院内科は糖尿病に関する 近隣地区の医療機関との 患者さま本位の診療連携を 目指しています!



■島田病院 内科医長 植田 秀樹

当院はチーム医療で糖尿病専門医を中心に糖尿病専門診療をおこなっています。

糖尿病にかかり、血糖が高く、血糖コントロールがうまくいっていない患者さまの治療のお手伝いをさせていただきます。特に食事指導と運動療法に力を入れています。

(1) 食事指導(栄養指導)に関しては、管理栄養士による懇切丁寧な指導をしております。食品交換表の説明をおこない、その利用の仕方を実践的に指導しております。患者さまの食生活状況や食習慣を捉え、評価し、各患者さまに見合った食事の摂り方を指導しております。

(2) 運動療法に関しては、運動をおこなうことが可能な患者さまに対して、各患者さまに見合った運動や体操を指導しております。地下に疾病予防施設ヴィゴラスを併設し、トレーナーと理学療法士が個人指導を致します。ヴィゴラスでは糖尿病専門医の処方する運動処方にしたがって、安全で合理的で継続可能な運動や体操を指導しております。



ヴィゴラスでのトレーナーによる運動指導風景

糖尿病の教育入院はクリニカルパスを用いた8日間コースでおこなっています。糖尿病に関する十分な知識や療養の仕方を指導しております。医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士、検査技師がチームを組み、患者さまの食事・運動・服薬・療養指導をしております。スタッフによる講義やビデオ学習、そして運動施設の利

用もしていただけます。入院終了時には修了証も授与しております。

また血糖コントロールでインスリン使用の必要な患者さまに対しては、7泊8日の入院によるインスリン導入指導をしております。開業医の先生や病院勤務医の先生で、受け持ちの患者さまにインスリン導入が必要と考えられる場合、先生方にもぜひ当院をご紹介いただければと思います。当院は診療所との糖尿病診療の連携に力を入れ、患者さまが最も通院しやすい医療機関で受診できるように配慮しております。(病診連携及び病病連携)

当院は大阪糖尿病協会にも加盟し、糖尿病協会主催のウォークラリーや患者さまやスタッフの勉強会にも参加・協力・指導をおこなっています。また糖尿病療養指導士の研修にも協力しています。そして糖尿病学会などの学術活動にも積極的に参加・発表し、糖尿病診療の最新の治療法を日常診療に取り入れています。

平成18年10月大阪糖尿病協会主催糖尿病ウォークラリー大会(鶴見緑地にて)に当院より参加・協力しました。

●主な学会等での発表

- 平成16年11月糖尿病学会近畿地方会(大阪市)にて発表
演題名:糖尿病における新しい運動療法への取り組み
- 平成17年10月大阪病院学会(大阪市)にて発表
演題名:糖尿病における当院での運動療法と食事療法システム
- 平成17年11月大阪府医師会医学会総会(大阪市)にて発表
演題名:糖尿病教育入院とインスリン導入システムの構築
- 平成19年11月アメリカ腎臓病学会(サンフランシスコ)にて発表予定
演題名:2型糖尿病性腎症における腎臓血流工学の解析
- 平成19年5月日本腎臓病学会総会(浜松市)にて発表
演題名:糖尿病性腎症における腎血流に関与する因子の検討

●主な論文発表

- 平成15年5月アメリカ糖尿病学会誌Diabetes Careに原著論文掲載
論文要旨:インスリンの糖尿病性腎症進展阻止への可能性

●主な糖尿病に関する資格・役職

- 医学博士(糖尿病に関する臨床研究にて授与される)
- 日本糖尿病学会認定糖尿病専門医
- 日本糖尿病学会認定糖尿病研修指導医
- 日本糖尿病学会近畿支部評議員
- 日本糖尿病学会認定糖尿病療養指導医
- 日本腎臓学会認定腎臓病専門医(特に糖尿病性腎症)
- 大阪糖尿病協会顧問医
- 大阪府医師会糖尿病地域病診連携検討委員会委員長

島田病院は以下のインターネットWebサイトでも、羽曳野市における糖尿病の専門病院として検索できます。

◆けんぽれん病院情報:<http://www.kenporen-hios.com/>

◆全国10万人以上のお医者さんガイド:<http://www.10man-doc.co.jp>

◆DM(糖尿病)ネット:<http://www.dm-net.co.jp/>

感染対策講習会を行いました

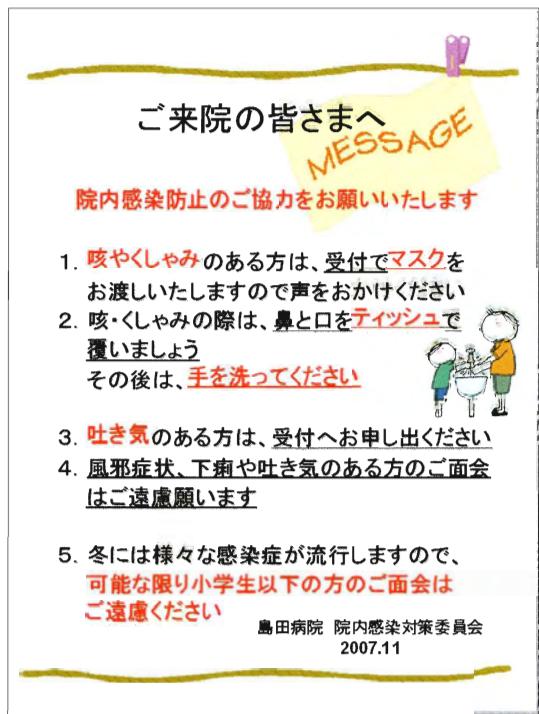
12月に入りますと、インフルエンザやノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行します。

病院や施設ではそのような流行性の感染症を早期に発見し、対策をとることが重要です。そのため施設内にポスターを貼り、患者さまやご家族へ右記のようなお願いをしております。

また、私たちは職員全員が感染対策を実践できるよう院内感染対策講習会を年に2回開催しています。下記の写真は昨年12月26日に八尾はあとふる病院で行いました講習会の様子です。疑似吐物を使用して、床に広がった吐物を正しく処理するトレーニングです。このように、マニュアルだけではなく「実際にやってみる」講習会を行っています。受講した職員は名札に黄色のシールを貼っています。



疑似吐物を用いてのトレーニング風景



第14回大阪病院学会 優秀演題賞を受賞しました



島田病院
看護部 課長 国本景子

今回の病院学会で入賞できたのは、島田病院の多くの看護師や多職種とのチームワークがあったからこそだと思います。ご協力いただいた職員の皆様に感謝するとともに今後もより良い看護が提供できるように取り組みを続けていきたいと思います。



老人保健施設 悠々亭
看護師 蛭原恵

老人保健施設で行う「看取り」というテーマで取り組みました。これまで病院での経験しかなかった私にとって、このテーマは勉強になったとともに他の専門職とのチームワークの大切さを感じました。これからもチームワークでより良いケアを目指していきたいと思います。

平成19年11月11日(日)グランキューブ大阪(大阪国際会議場)にて第14回大阪病院学会が開催されました。学会テーマは「大阪の医療の継続と質の向上を目指して—病院は負えない—」です。当日は191題の演題発表と1500名を超える病院関係者が参加し、盛大な学会でした。

はあとふるグループからも6題の演題発表を行い、看護セクションと介護セクションから、1題づつ優秀演題賞に選ばれました。

演題発表を行った職員名と演題名

【看護】

優秀演題賞

『小規模病院における効果的資源活用』 島田病院 国本景子

『チームで取り組む維持期リハビリの有効性』 八尾はあとふる病院 太田あけみ

【MSW】

『整形外科を主体とする小規模病院における医療相談員の役割』 島田病院 川畠恭子

【リハビリテーション】

『回復期リハ病棟におけるOT2名担当制の試行』 八尾はあとふる病院 伊藤健次郎
『SCD教育入院リハスタッフ対象のクリティカルパスの見直し』 島田病院 岩崎多裕

【介護】

優秀演題賞

『介護老人保健施設における看取り～施設看護師に求められるもの～』 悠々亭 蛭原恵

第16回はあと&はんずアカデミーを終えて

平成19年11月18日の日曜日 藤井寺市民会館大ホールにて、はあと&はんずアカデミーが開催され、演題発表20題 ポスター発表20題と過去最高の応募がありました。今回のテーマは「『感性と感動』—感性を研ぎ澄まし、感動を届ける—」です。私たちは日々仕事の中で、患者さまやご利用者、ご家族の言葉やしぐさ、笑顔などちょっとしたことから大きな感動を頂くことがあります。また、その感動を味わうために、日々感性を磨く努力を続けています。その努力の結晶を発表することで、結果の振り返りや達成感を味わうことができたのではないかと思います。そして、いつもと違った形式の学会を考え参加者から一般審査員を選出し投票としました。また、1セクションに座長を2人選抜し、セクション賞を設けるなど、全員参加型の盛り上がった学会になったのではないかと思います。私も学会の準備局のメンバーに助けられながら学会長と

して達成感を味わいました。これからも毎年院内発表を行うことで、より良いヘルスケアを提供できるように職員一同取り組んでいきますのでご協力、ご支援よろしくお願いいたします。



第16回 はあと&はんずアカデミー
学会長 介護老人保健施設 悠々亭
ケアサービス部 介護支援課長
阪村 智美

Infection Control Nurseの部屋

注目の抗菌薬関連下痢症 (クロストリジウムディフィシル)について

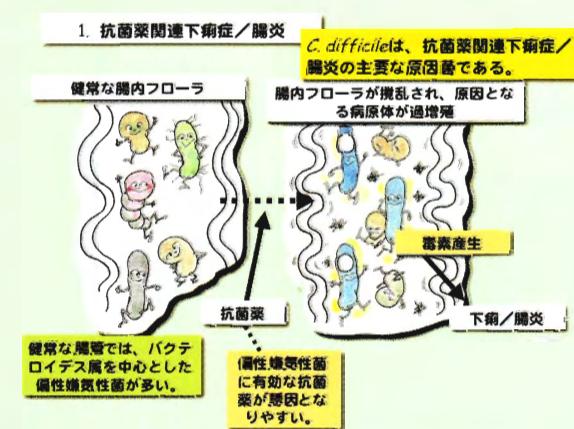
今回は、少しマニアックな感染症のご紹介をいたします。マニアックと言いましても、厚生労働省からは各医療機関へ注意を呼びかける通知が届いておりるので、注目の感染症でもあります。

発熱や感染症で抗菌薬を処方される事がありますが、長期にわたり飲み続けると消化管に住んでいる「賢い菌」の住む環境が悪くなり、代わりに毒素を出す「悪い菌」(クロストリジウムディフィシル)が増え、腸炎や下痢を起こし、その下痢便から排出された病原菌が病院などで拡がる事が問題になっております。この腸炎には特徴があり「偽膜性大腸炎」を起こし、時には内視鏡検査や手術が必要となる恐ろしい病気もあります。そして、やっかいな事に症状がないまま、自分の消化管に保有する場合が多く、感染を拡げてしまうリスクも抱えています。

イギリスでは、1990年の発生例は1000例であったのに、2004年には、44,488例もこの病気が増加している事がニュースで取り上げられ、オランダやカナダ、米国でも院内感染が報告されています。例えばカナダのケベッ

ク州では、発生率が5倍に増え死亡率も4.7%から13.8%に増加しているそうです。

重要な予防策は、不必要的抗菌薬を長期間飲まない(医師へ求めない)、排便をしたときには手を流水と石けんで常にしっかり洗い、食事前にも必ず手を洗う事です。



「賢い菌」から「悪い菌」へ変化していく腸内の環境
<http://www.nih.go.jp/niid/topics/> 国立感染研究所ホームページより引用

はあと ハート

インフォメーション

使命

私たちは、
良質のヘルスケアサービスを
効率よく地域の方々に
提供し続けます

理念

私たちは、その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを
心(Heart)と技術(Hands)で
支援します

1.「確かな技術」を追求します

基本方針
2.「心に届く」を追求します
4つの追求
3.「安全」を追求します

4.「信頼でつながるチーム」を追求します

島田病院 初診予約のご案内

島田病院 整形外科外来では初診患者さまの電話予約を受け付けしています。

お申し込み電話番号 **072-953-1051(直通)** にて承ります。

(島田病院代表番号では、予約申し込みの受付は行っておりません。お手数ですが、再度予約直通へおかけ直しください。)

曜日	予約電話受付時間	予約診療
月・火・水・金曜日	9:00~12:00	○
	16:00~19:00	
木曜日	9:00~12:00	○
土曜日	9:00~15:30	×

※ 午後診療の予約は、当日の12:00迄受け付けております。

※ 午前診療の予約は、前日19:00迄にご連絡ください。(日、祝祭日は除く)

※ 土曜日の予約診療は行なっておりません。

八尾はあとふる病院 初診予約のご案内

八尾はあとふる病院では、整形外科／島田医師(月:午前、火:午後)
リハビリテーション科／小野医師(火:午前)
内科／坂本医師(月:午前、木:午前)のみが予約制となっており、
初診患者さまの電話予約を受け付けています。

お申し込み電話番号

072-999-0725(代表) にて承ります。

曜日	予約電話受付時間
月～土曜日	9:00～16:00

※ 日、祝祭日は予約の受付を行っておりません。

※ 午後診療の予約は、当日の12:00迄受け付けております。

※ 午前診療をご希望される場合は、前日の16:00までにご連絡下さい。(日、祝祭日は除く)

Check!

QRコードで簡単アクセス

島田病院の情報が携帯電話から
簡単にアクセスできます。



はあとふる グループ

●医療法人(財団) 永広会

島田病院
Eudynamics はびきのヴィゴラス
介護老人保健施設 悠々亭
在宅介護支援センター 悠々亭
介護サービスセンター ゆうゆう亭
〒583-0875 大阪府羽曳野市桜山100-1

072-953-1001
072-953-1007
072-953-1002
072-953-1003
072-953-5514

ヘルバーステーション 悠々亭
訪問看護ステーション ハートバークはびきの
〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

072-953-1062
072-953-1004

八尾はあとふる病院
〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1
介護サービスセンター はあとふる
〒583-0815 大阪府八尾市宮町2-10-22

072-999-0725
072-999-8126

●社会福祉法人 はあとふる

高齢者生活福祉センター ゆうゆうハウス
〒583-0875 大阪府羽曳野市桜山96-10

072-931-1616

